

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年9月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670101908
法人名	公益財団法人 慈愛会
事業所名	グループホーム 愛と結の街
所在地	鹿児島市小原町9-28 (電話) 099-267-0533
自己評価作成日	平成24年6月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成24年7月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①地域との交流～女性学級、消防訓練、町内会加入、実習生受け入れ、ボランティアの受け入れなど積極的に行っている
- ②活力ある環境作り～利用者の楽しみの一つとしてウッドデッキや畑を活用して季節の野菜や花を植えている
- ③老健のPT・OTや歯科衛生士など必要時、助言を頂いている
- ④野菜販売～毎週木曜日、利用者・職員と一緒に老健にて野菜販売を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

[立地・環境]
・事業所は住宅地の中にあり、近くには国道やJR、市電の駅もあり交通の便は大変良い。また、同法人のデイサービスや老人保健施設、協力医療機関である谷山病院もあり、医療面、健康面においても安心して過ごせる事業所である。

[介護計画とモニタリング]
・日頃から気付いたことを支援経過や『介護記録』に記載し職員全員が目を通し情報や変化の見落としがないようにしている。また、定期的にモニタリングとカンファレンスを行なうと共に家族を含めた話し合いにより、関係者全員で介護計画を作成している。

[重度化や終末期に向けた支援]
・重度化や看取りについては、マニュアルを作成すると共に研修会にも参加するなど日頃から職員の意識向上を図っている。また、協力医療機関の医師や看護師とも連携が図られており、家族や職員、医療機関等が一丸となって支援していく体制が整えられている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	身近な生活圏域で、利用者の生活の継続性を維持した独自の理念を掲げ、毎朝朝礼時に理念を唱和し、理念に沿ったケアを行うようにしている。また、ユニット毎に年度目標（目指す介護）を掲げ、読み合わせを行っている・	理念には「安心と安全な暮らしを地域と共に創る」という言葉を含み、毎朝朝礼時に読み合わせ、職員間での意識付けを図っている。また、理念とは別に年度目標を職員間で話し合いながら立てており、ユニット毎に（目指す介護）を設定し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の女性学級に参加したり、ホームでの行事であるお月見会や消防訓練（年2回）など地域の方に参加を呼びかけ、町内会長やご近所の方に参加して頂いている。	町内会に加入し、利用者と一緒に回覧板を回したり地域の清掃活動や女性学級にも積極的に参加している。日常的に散歩や買い物に出かけた際に挨拶等交わし、時に近所の方からのおすそわけを頂くなどの間柄にある。また、保育園の行事に参加することもあるなど交流の機会が多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方の相談や困りごとは、ネットワーク（老人保健施設、谷山病院、居宅介護支援センター、地域包括センターなど）を活用して対応に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、入居者の生活状況やホームの活動を報告し、町内会長や民生員の方々にも参加して頂いている。そこでの検討事項などはホームのカンファレンス時に意見を出し合いサービスの向上に活かしている。	会議には家族のほか、民生委員や町内会長、第三者評価委員、包括支援センターの職員らが参加し、事業所の活動内容の報告や年度目標の設定など出席者全員で活発な話し合いが行なわれている。ただ、外部評価の結果やそれを受けての改善・目標達成について話し合いの記録は確認できなかった。	外部評価の結果報告はなされているとのことだが、目標達成計画の報告や計画についての対応報告、記録がなされていないため、今後は、運営推進会議を活かし、目標に向けての取り組みについて意見を集め、サービス向上に向けて取り組んで頂きたい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の相談員の方には訪問してもらっているが、困り事がある時に電話相談をする程度である。	毎年、介護相談員を受け入れており、利用者からの要望など、事業所側に意見して頂いている。また、介護保険証の更新時や事業所内で困りごとが生じた際に電話や相談に出向くなど意見交換を密に取るよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	隣接する老人保健施設の身体拘束委員会と連携図り、毎月1回～2回話し合いを定期的に行っている。問題解決や書式の作成に取り組み、勉強会や職員の知識・意識を高め、常に身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	マニュアル『身体拘束の廃止の推進について』を準備すると共に毎月のカンファレンスにおいて『身体拘束係り』によるヒヤリハット報告と対策についての話し合いがなされている。また、同法人の運営する老人保健施設の『身体拘束廃止委員会』にも参加し、より具体的な話し合いがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われる背景や高齢者虐待の事例などを研修等で学び、正しい理解を持ち防止に努めている。職員間の共有認識や業務の改善を行い、スタッフ同士が気軽に話し合える環境作りにも心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉に関する研修会や介護保険の勉強会などに参加することで、個人・上司から学び、みんなで情報交換を行い支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には十分な説明を行い利用者や家族の不安や疑問点などを尋ね、理解・納得が得られるように努めている。また、面会や定期カンファレンス時に気になることなどを聞き、その都度納得して頂けるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的（半年に一度）に開催する家族会や外出レクリエーションに参加される家族に話し合いをする場を設け、その要望を運営に反映させている。	利用者の思いは、日頃の会話や様子などから把握すると共に年2回の家族会からも把握するよう努めている。また、年に4回発行している『愛と結の街新聞』を家族に郵送し事業所内での様子や活動について報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度職員同士で話し合いをする機会を設け、そこで出た意見や提案を運営に反映させている。また、個別に面接を行い職員の意見や思いを聞いている。	毎日の朝礼やカンファレンス時、また勉強会の時等に意見を聞く機会を設けているほか、年に数回個別面接の機会も設け、職員一人ひとりの意見を聞き取り、業務改善やサービス向上に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者や職員個々の思いが伝えられるよう環境を整え、昇給や各手当の支給、有給以外にも夏休・冬休・リフレッシュ休暇があり、職員の健康管理の実施に取り組んでいる。また、育児休暇・介護休暇もあり、職員の環境整備にも努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、1年間担当の指導員が付き、お互いに成長していけるよう取り組んでいる。毎月法人内研修も行い、外部研修への参加も多く職員の技術を高めようとする意識が大きい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修での交流を図ったり、谷山地区での勉強会にも交代で参加し、意見交換を行うなどサービスの質の向上を目指した取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意志を尊重し、担当職員が寄り添いながらそれぞれの困り事、心配事、要望を傾聴し、本人の意向を重視した支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やカンファレンス、電話など、常にご家族の気持ちに配慮し対応を行っている。また、毎月メッセージにて近況報告を行い、常に信頼関係が築ける様心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時は、暫定プランを作成し、初期カンファレンス後介護計画を作成している。見直しは6か月毎だが、状況の変化があればその都度臨機応変な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、畑仕事・料理・洗濯・裁縫など得意分野を活かしてもらう工夫をしており、支えあいながら共に過ごす関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族が面会時などでも常に意見を言い易い様な環境作りに心がけ努力している。また、6ヶ月毎のカンファレンスには必ず家族の同席をお願いし、家族の意見・要望を聞き出すように取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴や習慣など馴染みのある家具や仏壇を置くなど暖かく安心した雰囲気の中で過ごせる環境作りを行い、ご利用者同士が仲良く過ごせる様に見守り支援を行っている。	『グループホームインテーク用シート』にこれまでの生活背景を記載しているが、これまでの人間関係や馴染みの場所等の把握についてはやや不十分なところもある。また、基本的に利用者個人の外出支援は行なわない方針としており、訪問の手助けについては、家族に連絡をとり橋渡しの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の思いや希望をよく聞き、表情などから気持ちを読み取り、個々の意向に添えるようなケアと、週に1回の野菜販売や月に1度の外出レクリエーション等でご利用者同士の関わりが深まる支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所となった場合でも居室費を払えば一ヶ月間は部屋を借りている事が可能で、サービス利用(契約)が終了してもこれまで通り本人並びにご家族の相談・要望を聞き、今後の生活についても共に考えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が利用者の思いや希望を聞き、表情や会話などから気持ちを把握し、個々の意向に沿えるようにケアする事がグループホームの本質と捉えて、安心できる生活を支援している。	日頃から本人の行動や表情などから思いを汲み取るとともにセンター方式の『24時間生活変化シート』や『わかること、わからないことシート』を活用し、6か月ごとに行なうプランの見直しの時等定期的に話し合いがなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークや家族からの情報収集をもとに、今までのサービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の変化を見極め、本人や家族と会話をし、総合的に把握するよう努め、ケアプランに反映させている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンス以外にも本人や家族の意向を聞き取り、意見を出し合いながら、介護計画を作成している。	本人や家族の意向については、日々の生活の中から把握するとともに家族からは面会時や担当者会議の時等に意見を確認しケアプランに反映させている。また、職員全員が毎日目を通す『介護記録』を詳細に記載し心身の状態に則したケアプランとなるようこまめに見直し修正がなされている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し情報を共有して、ケアプラン作成時にアセスメントとして活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望・希望に応じて、受け入れ可能なことには積極的に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の持つQOLを大切にし、また発揮出来るように支援していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回ある主治医の往診を行うことで、適切な医療を受けることが出来ている。	毎月の往診と週1回の看護師による『健康管理』を行ない、利用者の心身の状態について支援経過に詳細に記載している。また、日頃より主治医とはメール等で連携が取れており、家族にも随時本人の様子や状態について報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた情報、気づきを看護師に伝え相談することで看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者に変化があった時、薬が変更になった時などサマリーに記録して、入院する場合に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員は家族との話し合いを早い段階から行い、グループホームで出来ること、出来ないことを十分に説明し家族に理解してもらう。	重度化や終末期のケアについては、重要事項説明書で説明するとともに6カ月ごとに開催している担当者会議の場においても必ず再確認するようにしている。また、マニュアルである『看取り介護に関する指針』にて職員間の意識付けが図られるとともにグループホーム協議会による研修にも参加し職員全員で方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の講師による救急法の研修会を年2回実施している。職員全員参加し、習得できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急通報システムを整備し、避難経路、避難場所の確認を行うと共に地域の方々にも協力をお願いしながら年2回避難・通報・消火訓練を行っている。	『災害時防災マニュアル』を準備し年2回消防署や地域住民も交えた災害訓練を実施しており、隣接している介護老人保健施設からの応援ももらえるよう体制を整えている。備蓄については、懐中電灯や毛布等は準備してあるものの食料品の準備はされていない。	災害時には老人保健施設からの応援がもらえるよう連携を図っているところだが、避難訓練時の参加がなされていないため訓練段階から参加してもらえるとより充実した訓練となると思われる。また、食料品等の準備についても早急な検討を期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、個人情報の保護について研修を行っており徹底が図られている。職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	接遇や個人情報の研修を開催するとともに日頃より言葉遣いや職員の表情や態度についての話し合いがなされるなど利用者の人格を尊重した関わりを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や買い物などの声掛け行い、本人の希望に添えるように対応している。何か欲しい物がある時は購入できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先しがちになるが、職員同士、声を掛け合い、本人の生活リズムを大切にし利用者の希望に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出、朝の更衣時には自ら服を選べるように支援行っている。本人や家族の希望時には散髪が行えるように対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々のレベルに合わせて、台拭き・野菜の下ごしらえ・盛り付け・配膳・下膳・食器洗いなど出来る事を一緒に行いながら、食事を楽しむことができるよう支援している。	毎日の献立は特に決めておらず、菜園にある野菜や冷蔵庫にあるものを中心にその日の利用者の希望に応じたメニューが提供されている。また、買い物から調理の下ごしらえ、配膳下膳など一連の工程を利用者と職員が共に行なうなど楽しく食事ができるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量など観察し、利用者に合うような食事形態も工夫している。法人の栄養士にアドバイスをもらいながら栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ・準備を行い口腔ケアが行えるように支援している。口腔状態・摂食・嚥下に関するアセスメントを行っており、口腔状態は把握できている。問題等みられた場合法人の歯科衛生士に報告し、対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の量・パターンに合わせたパッドやリハビリパンツを選んでいる。利用者の排泄のリズムに合わせトイレ案内を行っている。	数名の利用者がリハパンツ等使用しているが、状況に応じてパッドとリハパンツを使い分けるようにしている。また、現在1名の利用者の排泄チェックを行っており、排泄パターンの把握に努め、職員間において対応や支援方法を話し合いプランに反映させ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や野菜、繊維類の多い食事を心がけ、体操や散歩など適度な運動を行い、自然な便通に努めている。便秘時には、冷たい飲み物、腹部マッサージなどを行い、看護師による薬服用などで対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎回必ずバイタルをチェックし、入浴の声掛けのタイミングを考え入居者自身のペースでゆったりとした入浴をして頂いている。（週3日）	木曜日以外の週3回午後からの入浴を基本としているが、利用者の体調や希望に合わせて随時入浴できるよう支援している。また、体調や皮膚状態等によりシャワー浴や足浴など状態に応じた入浴支援がなされ、入浴後の水分についても配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の臥床は出来るだけ短く、本人の気分や体調がすぐれない時には居室で休んで貰うなど、安眠、安息に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃から看護スタッフとの連携を図り、服薬と症状の変化の確認をしている。個々の服薬チェック表にて毎日の管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴なども考慮し日常生活の中で得意な分野を見出し日々を楽しめる様にする。外部よりボランティアに来て貰い踊り・書道なども楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候により散歩や買い物などに出る機会を日常的に作り支援している。又、毎月外出レクリエーションなど家族同伴での外出の機会を計画している。地域交流で女性学級の参加も行っている。	日頃より散歩や買い物、ドライブに出かけており、気分転換を図っている。ドライブには老人保健施設のバスや車いす対応車を利用し外出の困難な方も一緒に外食や花見などの行事を楽しむ工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持つ大切さを理解し希望に応じてスタッフと買い物に行ける様にしている。家族からの預り金は各人毎の出納簿で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	グループホーム1階に公衆電話が設置されており、必要時には電話が出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が集まるホール（兼食堂）では利用者と職員が日中ほとんど一緒に過ごしており、庭には畑もあり季節の野菜や花など植えられ季節を感じ思い思いの過ごし方をしている。	共有空間は明かりや換気に気を配るとともにリビングには季節ごとに作られる作品が掲示され、和やかな雰囲気になるよう配慮している。また、浴室は明るく清潔に保たれ、脱衣場にはエアコンが完備され浴室との温度差にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、ソファも置いてあり入居者同士会話を楽しんでいる。居室は個室になっており自由に過ごして頂けるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が居心地よく過ごせる様に写真や飾り物など思い出の品を置いている。	ベッドとタンス、エアコンは備え付けだが、洋ダンスや仏壇など自宅で使われていたものを持ちこまれ、馴染みの品や写真なども飾られ居心地の良い居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリ（炊事・洗濯・掃除）を通しての自立支援に向けてそれぞれの方の得意とするものを見出し見守りながらの環境作りをしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を唱和し、理念に沿ったケアを行うようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の婦人学級に参加したり、またグループホームである行事(防災訓練など)には地域の方も参加してもらい交流を図っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方の相談や困りごとは、ネットワークなどを活用して対応に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月おきに運営推進会議が設けられており、地域の方々へ状況を報告している。参考事例や検討事項などはスタッフのカンファレンス時に意見を出し合ってサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の相談員の方には訪問してもらっているが、困り事があるときに電話相談をする程度である。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修などに参加したり、管理者による指導を通し身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関や居室の施錠をしないケアの理解を職員間で行い実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などへの参加や管理者による指導により正しい理解をもち防止するように努めている。スタッフ同士が気軽に話し合える環境を作り、ストレスを溜めないようにも心がけている。(長期休暇の取得など)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修などに参加することで、個人・上司から学び、尊厳についてみんなで情報交換を行い支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族に不安や疑問に思うことを尋ね、十分な説明と理解・納得をはかっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に、運営推進会議を開き、その要望を運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面接を行い、職員の意見を取り入れ反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	リフレッシュ休暇をなるべく取り入れるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、スタッフの能力に応じて施設内外の勉強会に参加できるよう声掛けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修に積極的に参加し、同業者との交流も図れ情報交換することで、日々の業務に生かすことが出来る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、本人から不安や要望を十分に聞き入れ、話し合っていくにつれて関係作りに努めながら導入している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、家族から不安や要望を十分に聞き入れたうえで話し合い導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の生活歴・病歴・現状態などを把握した上で、必要とする支援をケアマネージャーと介護士が一緒になって見極めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者は目上の方であることを念頭にいれて、できるだけ多くコミュニケーションを図り信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、面会時等で出来る限りコミュニケーションを図っている。外出レクリエーション等への参加を勧めたりして、家族の絆を大切にしながら、共に利用者を支えていく関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時や面会時に、本人や家族から、今までの生活の様子を聞き、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係がとぎれないように支援するように取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して、孤立しないように利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援するように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用（契約）が終了したとしても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者1人ひとりの思い、暮らし方の希望・意向の把握に努め、困難な場合でも本人本位で考えて、その意志を尊重するように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カルテ、サマリー、家族・職員からの情報等で、利用者がどのような生活を過ごしていたのか把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、経過記録、申し送りノート、ケースカンファレンス等で、現在の状態を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリング、6ヶ月ごとにカンファレンス、必要時には職員たちによるケースカンファレンスを行い、利用者の状況にあったケアを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、日々の様子や出来事、実践、結果と個々の特徴や変化を具体的に記録している。職員間では、情報共有し、実践、介護計画の見直しをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてグループホームでの宿泊による家族との団らんも行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の女性学級に参加したり、地域の方々と一緒に消防訓練を行い、安全で安心な生活ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族にかかりつけ医を伺い、適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、健康状態を看護師に報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、入院する前の状況や病歴等情報の提供をしたり、早期退院に向けて、情報交換や相談、今後の方針等家族の意向を聞きながら、病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へは、グループホームでできるターミナルケアについて説明し話合っている。その人らしい最期を迎えるために家族、医師、看護師と共に連携図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修会を年2回実施しており、必須科目になっており、職員は、必ず参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。夜間想定も実施しており、老健施設との協力体制も整っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、一人の一個人として尊重した言葉かけや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や日々の生活の様子などから利用者本人の思いや希望を汲み取り、本人の意思を尊重して自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の利用者の状況に合わせて職員間で協力して業務を行い、安全を考慮しながら本人のペースや希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝、起床時にその日の天候や温度を配慮し更衣の支援を行い、本人持ちの化粧水や整髪料で身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者にしてできる調理補助や食事の準備、片付けを職員と一緒にしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を把握し、記録している。また食事時と10時、15時、入浴時、入床前の定時以外に希望時に水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアの声かけと案内を行っている。また夜間はポリデントなどで義歯洗浄をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を考慮し、トイレ案内やおむつの選択をしている。排泄チェックシートを活用し、トイレでの自立した排泄に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便サポートの必要な利用者を把握し、個々に対しそれぞれ看護師や医師と連携して服薬による支援や起床時冷水をケアプランに入れ支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの体調や気分に合わせて週3回入浴が行えるように調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや状況を把握し、室温の調整や明かりの調整を行い休息や安眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ間で情報を共有し、利用者の変化に早く気付く事ができるよう努めており、健康で生活を送れるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や家族の情報を参考に、役割や手伝いをさせていただいたり、趣味や気分転換をさせていただいたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出がしたいと希望されることは少ないが、散歩や外出レクリエーションを通じて外出を楽しまれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行かれることがなくなり金銭面での支援を行うことがなくなった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	公衆電話を使用し電話をかけることが難しくなってきた為、希望があった場合はスタッフが電話をかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	タペストリーや季節の物を飾るなどして、季節感を採り入れている。また、過ごしやすいように、室温や物の配置に注意して、居心地よく暮らせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室では独りの時間が過ごせている。また、利用者同士で会話がしやすいよう席やソファの位置を配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室については家族と本人が主となり居心地の良い空間を作られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせて、その都度、居室の検討をしたり、物の配置を検討することで安全に自立した生活が続けられるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない